



2025 年
5 月 30 日発行

秋草学園高等学校 図書館

5 月は連休・模試・中間考査・体育大会、緩急ありますが、新年度の助走も終り生活のリズムが整ってきたと思います。一年生はオリエンテーションで図書館に来たきりの方もいらっしゃるでしょう。学校内でほっとできる場所のひとつに図書館はいかがでしょうか。図書館は本を借りるところという固定観念を打ち破ってください。知りたいことや興味があることがちりばめられている場所なのです。本はもちろん、本だけではないのです。何があるかは、ご自分で探してみてください。

2025 年本屋大賞『翻訳小説部門』

4 月 9 日に受賞作品が発表された「本屋大賞」は、大賞以外の部門も発表されています。図書館にはすべてそろっています。

翻訳小説部門

第 1 位

933-ヤ-1-1、-2『フォース・ウィングー第四騎竜団の戦姫ー』 レベッカ・ヤロス 著 早川書房

「ロマンジー」、たった 2 年前にできたこの新語は、まさに『フォース・ウィング』を指してできた言葉です。ロマンスとファンタジー、いままではそれぞれ別個に扱われていたのです。ここで、ロマンスの旗手のヤロスが初ファンタジーに挑戦、そして爆発的ヒット。すぐに続編も刊行という次第です。

軍人の家系で竜騎手養成の軍事大学に入学した 20 歳のヴァイオレット。配属先の第四騎竜団での戦いとロマンス。一見日本のアニメにありがちな設定ですが、脳裏に浮かぶ画像は「アニメ絵」ではなく、「実写画像」なのです。

そして、第二のハリボタの予感もする大作です。

第 2 位(同着)

B933-パ『白薔薇殺人事件』

クリスティン・ペリン 著 東京創元社

こちらは、昨年刊行の作家デビュー作です。「これぞ、正統派犯人当てミステリ！」というあおりで広報しています。さしずめ現代のアガサ・クリスティーでしょうか。

第 2 位(同着)

929.1-ハ『別れを告げない』

ハンガン 著 白水社

2024 年のノーベル文学賞受賞のハンガンが 2021 年に発表した本書は、虐殺を扱った著述作家としてのつらい過去を持つ女性の人生再生を描いています。

国語の教科書の作品を揃えています

新編文学国語/大修館書店 p 120

913.6-ミ『神去なあな日常』

三浦しをん 著 徳間書店

三重県の子山奥、美人の産地・神去村。都会の高校を卒業してなぜか林業を仕事にしまった「俺」は神去村の自然とゆったりした人々の中で生きていきます。

論理国語/大修館書店 p 101

B913.6-3『「方言コスプレ」の時代』

田中ゆかり 著 岩波書店

「ニセ関西弁から龍馬語まで」というサブタイトルからも十分想像がつく内容です。

文学国語/数研出版 p 294

913.6-ム『一人称単数』

村上春樹 著 文藝春秋

教科書には「クリーム」というタイトルで載っています。

教科書の抜粋部分だけを読んだ学習、出典にあたっての学習、学習方法はいろいろあります。約 1,000 冊を紹介している「国語教科書文献リスト」は、図書館検索サイト OPAC のメニューリストから見るすることができます。



新着コーナーの気になる本

480-イ-1『新さんねんないきもの事典』

今泉忠明 監修 高橋書店

『さんねんないきもの事典』10 冊目でリニューアルです。---「さんねんないきもの」とは一生けんめいなのに、どこかさんねんないきものたちのことである---を貫いて 10 年、当初の進化論から変化があるということで、ネタにつかないのでしょうか。「きじも啼かずば討たれまい」というのが事実だということも解明されています。

司書の今月はこの本読みました

体育大会は何色団だったかな?

4 月に着任しました。実はあまり本を読みません。それなのに、当コーナーの担当になってしまいました(ぐぐ)『なぜ働いていると本が読めなくなるのか』(三宅香帆/集英社/S019-ミ)にもある通り労働と読書量には深い相関関係があるらしいのです。しかも、読むとしたら「新聞や雑誌で小説を偶然見かけてそのまま読んでいた」(同書 p99)だそうです。まさに、『成瀬は天下を取りにいく』(宮島末奈/新潮社/913.6-ミ)は「表紙が西武ライオンズのユニフォームの女の子」という理由だけで読みました。閉店になる西武百貨店をめぐる短編でしたが、読後は自分の近所の来年 1 月に閉店になる駅ビルに思いを重ねました。そして、続編『成瀬は信じた道をいく』も一気読みしました。【横関】